

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

朝日新聞が「コミュニケーション能力」という言葉が出てくる自社記事の数を調べたことがあります。それによると、記事が急激に増えるのは二〇〇四年からです。これは、ちょうど日本の失業率が急激に悪化した時期と重なります。コミュニケーション能力を重視すると答える企業が急激に増えはじめるのもこの頃です。コミュニケーション能力が不足していると職に就くことすらできない。そんな危機感が若年層の間に募っていったとしても不思議ではないでしょう。

そもそも「価値観の多様化した世界では、互いに相手の価値判断の身に立ち入ることは難しくなります。そのため、相互に異なった価値観を調整しあうために、かつて以上に高いコミュニケーション能力が要求されるようになります。従来、日本人は空気を読むのが得意で、「あうんの呼吸」で意思の「ソ」通がはかれるといわれてきました。島国でもあるため、互いの同質性が高かったからです。しかし、今日のように様々な価値観が錯綜しあうようになった社会で、その具体的な内容を見通すことは困難です。共通の評価基準を持つことは、なおさらのこと不可能です。そのため、互いの立場を調整しあうためのコミュニケーション能力だけが、ただ一つの共通の評価基準として残されることとなります。コミュニケーションを通じて獲得される説得力の強さに応じて、各々の評価が間接的に行われるからです。

このように考えるなら、今日のコミュニケーション能力は、多種多様な商品が行き交う自由市場の貨幣と同等の役割を果たしているともいえます。貨幣さえあればどんな商品とも交換できるように、コミュニケーション能力さえあればどんな他者とも関係を取り結べるからです。

一

大量の貨幣の持ち主が社会的に有利なポジションに立ちうるように、高いコミュニケーション能力を備えて

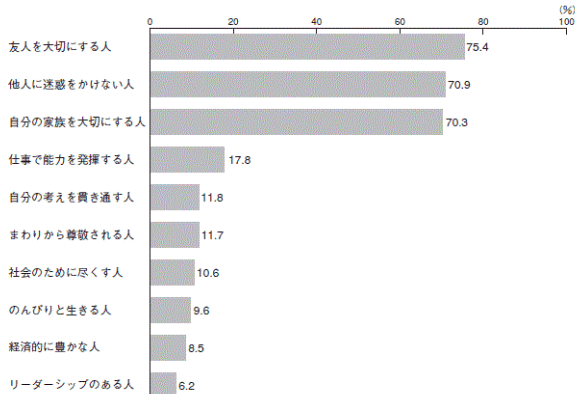
いる人物も社会的に有利なポジションに立ちやすくなります。少なくとも、一般的にはそう思われてきたのではないのでしょうか。

しかし、ここには大きな錯覚もあります。よく考えてみれば、コミュニケーション能力ほどその評価を他者からの反応に依拠するものではありません。コミュニケーションとは、その原理的な性質からして、個人の内部で完結するものではなく、つねに他者との関係の総体だからです。コミュニケーション能力も、たとえば気の合う相手とは話も弾むように、じつは相手との関係しだいで高くも低くもなりうるものです。それは、貨幣のように個人が持ちあわせているものではなく、すなわち個人に内在する能力ではなく、じつは相手との関係の産物なのです。個人の努力でどうにかなるものではなく、偶然の出会いによって大きく左右されるものなのです。

もつとも、だからこそコミュニケーション能力は、私たちの意識を外部から拘束する力が強いともいえます。「世界価値観調査」によると、二〇〇〇年以降の日本では、人生を決めるのは勤勉よりも運やコネだと考える人々が増えています。昨今のコミュニケーション至上主義がその背景の一つとなっているのは間違いないかもしれません。自由と自己責任を重んじる新自由主義は、このような宿命論的な考え方と相矛盾するように見えますが、じつは両者が密接に結びついている点にこそ、今日の新自由主義の特徴があるのです。

その事例の一つとして、近年、若者や子どもたちが他者を蔑視したり嘲笑したり、あるいは自分をわざと「ヒ下」してみせたりするとき、盛んに使うようになった言葉を挙げるができます。コミュニケーション障害を略した「コミュ障」という言葉です。これは、今日の社会でコミュニケーション能力が大きな比重を占めるようになっていてを示しています。その能力に対する期待値が高ければ高いほど、現実とのギャップは広がり、そこに強い欠落感を覚えるようになる

■図2-2-1 子どもの将来に対する期待 (05年)



注1) 10項目の中から、3つまで選択。

注2) 母親の回答のみ分析。

注3) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

(サンプル数 2931人)

からです。また同時に、「障害」という形容には、それが個人的な努力でどうにかなるものでもないといった感覚も投影されています。しかも仲間内の会話では、人間関係を維持するための「潤滑油」として、この言葉が使われている点に注意する必要があります。なぜなら、かつてその潤滑油の役割を果たしていたのは、「大人社会への敵意」だったからです。生きづらさの源泉と感じられる対象が、社会的な要因から個人的な要因へと移行しているのです。

このように述べると、なるほど社会人の場合はそうかもしれないが、まだ社会の風にさらされていない学齢期の子どもたちが、そんなに新自由主義の影響を受けているとは思えないと疑問を持たれるかもしれません。しかし、昨今の学校現場では早期から「<sup>注1</sup>キャリア教育」にも取り組むようになっており、今日の社会を生き抜くためにコミュニケーション能力がいかに重要か、子どもたちはことあるごとに教え込まれています。たしかに企業が求めるコミュニケーション能力は、子どもたちがイメージするものとはまったく違うかもしれません。しかし、その能力を重視する社会の風潮は、<sup>(※)</sup>形を変えて子どもたちの人間関係にも影響を与えているのです。

ベネッセ教育総合研究所が二〇〇五年に行なった「幼児の生活アンケート調査」によれば、母親が子どもの将来に期待することの一位から三位は、図2-2が示すように、「友人を大切にすること」「他人に迷惑をかけないこと」「自分の家族を大切に

にする人」です。一方で、「社会のために尽くす人」が圧倒的に少ないことから推察すれば、これは子どもたちに「二」になれと要求しているわけではなく、人間関係から外されたら自分自身が生きていけないという母親たちの切実な感覚が投影されたものといえます。

地縁や血縁だけでなく、社縁すらも薄れていく今日の社会で、孤立することなく無事に生き抜いていくための人的資源を、博報堂生活総合研究所は「インフラ友だち」と名づけています。今日の母親たちも、そのインフラ友だちとしての「マ友」づくりに自ら励んでおり、この社会の趨勢をよく心得たうえで子育てに取り組んでいます。新自由主義は、<sup>(※)</sup>こうした親の養育態度を通して、子どもたちの人間関係にも影響を与えているのです。事実、ベネッセ教育総合研究所が二〇〇六年に行なった「第四回学習基本調査」では、小中高のいずれの児童生徒も、その九割以上が、いい友だちがいると幸せになれると回答しています。

このように見てくると、今日の子どもたちが人間関係に対して過剰に気を遣うようになってきたのも当然といえるでしょう。同じくベネッセ教育総合研究所が行なっている「子どもの生活実態基本調査」で、二〇〇四年と二〇〇九年の回答を比較すると、仲間外れにされないように周りに話を合わせる児童生徒は、小中高のいずれでも増えています。しかもその比率は、高校生よりも中学生、そして中学生よりも小学生のほうが高い傾向にあります。企業の期待するコミュニケーション能力が、周囲に合わせる能力にあるとは思われませんが、社会の風潮は、このように変質しながら子どもたちに伝わっていくのでしょうか。

実際、右で触れた「幼児の生活アンケート調査」でも、子どもに「リーダーシップのある人」になってほしいと回答した母親は最下位でした。学校の教師たちも、昨今はリーダー役を引き受けてくれる子どもが見当たらなくなり、学級運営が難しくなっているとこぼします。今日の子どもたちは、プラスにであろうとマ

イナスにであらうと、どちらでも集団のなかで目立つことは非常にリスクなことであり、できるだけ回避しなければならないと感じるようになっていくのです。

(㍻) その心性は、いじめ問題にも投影されています。良くも悪くも集団のなかで目立ちやすい子どもが標的にされやすい一方で、それでも目の前の人間関係にしがみついていないと生きていけないという切迫感が、さらに被害を深刻化させている側面もあるからです。いじめの被害に遭っている子どもに対して、そんな相手とは付きあわなくてもよいではないかと、私たち大人は安易に助言してしまいがちですが、当事者にとってそれがいかに困難なことか知っておくべきです。

本書の別の箇所、戦後のわが国の不登校者率は<sup>(注2)</sup> Uカーブを描いているとも指摘しました。しかし、じつは二〇〇〇年を越えたあたりから、その増加傾向は頭打ちになっています。高留まりのまま横ばいになっているのです。対策が進んできた結果、事態が改善されつつあると捉えることもできますが、うがった見方をすれば、それだけ人間関係の拘束力が高まっているとみなすこともできるでしょう。かつてなら、たとえ不登校になっても自分一人で生きていけると考えたのに、いまでは不登校という選択すらできないほど、人間関係へのプレッシャーが高まっているのではないのでしょうか。いったん人間関係から落ちこぼれてしまったら、もう後は生きていくことができない。そんな危機感が強まっているように思われます。

(土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』より)

(注1) キャリア教育…… 学校での進路指導。職業観を育み、自立する能力を身に付けることが目的。

(注2) Uカーブ…… 第二次世界大戦後からの不登校児童生徒の割合の推移をみると、中学校では一九七〇年代後半、小学校では

一九八〇年代前半を底に、グラフは大きくUカーブを描いている。

問1 傍線㍻「価値観の多様化した世界」は、本文中ではどのような状態として捉えられているか。この中から最適のものを選り、記号にマークしなさい。

- A お互いの価値判断の中身に入り込める状態。
- B お互いに共通の価値基準を持っている状態。
- C コミュニケーション能力だけが共通基準になった状態。
- D 価値判断の具体的な違いを見渡せる状態。
- E 島国としてお互いの同質性が高くなった状態。

問2 傍線㍾「ソ」にあたる漢字はどれか。次の中から一つ選り、記号にマークしなさい。

- A 組
- B 阻
- C 訴
- D 疎
- E 措

問3 空欄□にはどのような語句がはいるか。次の中から最適のものを選り、記号にマークしなさい。

- A ところが
- B もちろん
- C とはいえ
- D あくまで
- E そのため

問4 傍線㊦「大きな錯覚」とは、具体的にどのようなことか。次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

- A コミュニケーション能力は他者との関係で定まると考えること。
- B コミュニケーション能力は個人的なものだと考えること。
- C コミュニケーション能力は偶然の出会いで左右されると考えること。
- D コミュニケーション能力は貨幣とは異なると考えること。
- E コミュニケーション能力は話し相手次第だと考えること。

問5 傍線㊦「このような宿命論的な考え方」とは具体的にどのようなことか。次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

- A コミュニケーション能力が人生を決めると考えること。
- B 自由と自己責任が人生を決めると考えること。
- C 意識を拘束する力が人生を決めると考えること。
- D 運やコネが人生を決めると考えること。
- E 勤勉さが人生を決めると考えること。

問6 傍線㊦「ヒ」にあたる漢字はどれか。次の中から一つ選び、記号にマークしなさい。

- A 被 B 罷 C 悲 D 碑 E 卑

問7 傍線㊦「潤滑油」とは、具体的にはどのようなことか。次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

ものを選び、記号にマークしなさい。

- A 物事を慎重に進めるためのもの。
- B 物事を滞りなく運ぶためのもの。
- C 物事を空回りさせるためのもの。
- D 物事を冗談にするためのもの。
- E 物事に緊張を与えるためのもの。

問8 傍線㊦「形を変えて」とあるが、なにがどのように変化するのか。筆者の主張にあてはまる内容として、次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

- A コミュニケーション能力を重んじる社会の風潮が、コミュニケーション障害として。
- B コミュニケーション能力を重んじる社会の風潮が、学校現場でのキャリア教育として。
- C コミュニケーション能力を重んじる社会の風潮が、大人社会への敵意として。
- D コミュニケーション能力を重んじる社会の風潮が、人間関係に気をつかう態度として。
- E 自由と自己責任を重んじる新自由主義が、コミュニケーション能力として。

問9 空欄 □ にはどのような語句がはいるか。次の中から最適のものを選  
び記号にマークしなさい。

- A 利他的に      B 利己的に      C 能動的に  
D 受動的に      E 攻撃的に

問10 傍線①「こうした親の養育態度」とは、具体的にはどのようなことか。  
次の中から最適のものを選り、記号にマークしなさい。

- A 地縁や血縁に頼った人間関係のなかで子育てするという態度。  
B 社縁に頼った人間関係のなかで子育てするという態度。  
C 孤立を回避するための人間関係を作って子育てするという態度。  
D 孤立的な人間関係のなかで子育てするという態度。  
E 人的資源の質を気にせず子育てするという態度。

問11 傍線②「その心性」とは、具体的にはどのようなことか。次の中から最  
適のものを選り、記号にマークしなさい。

- A 集団のなかで目立つように努めること。  
B 集団のなかで目立たないように努めること。  
C リーダー役を引き受けようとする事。  
D 学級運営を積極的に支援すること。  
E リスキーな行動を回避しないということ。

問12 本文内容と合致しないのはどれか。次の中から一つ選り、記号にマークし  
なさい。

- A コミュニケーション能力とは互いの立場を調整する能力である。  
B コミュニケーション能力の強調は子どもにも影響を与えている。  
C 人間関係そのものが新自由主義的になってきている。  
D 仲間への同調性は学年が上がることに強くなっている。  
E コミュニケーション能力への注目は人間関係の拘束力を高めている。

二

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

一

或所<sup>ある</sup>に氣の利<sup>き</sup>かない <sup>注</sup>① 細君<sup>さいくん</sup>を持った一人の男があつた。男は細君を愛しては  
いたが、その氣が利かない事ではよく腹を立て、癩癩<sup>かんしやく</sup>を起し、意地悪い叱言<sup>こいご</sup>を  
続け様<sup>よう</sup>について細君を困らした。その度、細君は自身のその性質を嘆き、愚痴<sup>ぐし</sup>を  
云つた。

「貴方<sup>あなた</sup>は私のような氣の利かない奥さんをお貰<sup>もら</sup>いになった事を心では後悔して  
いらつしやるでしょう？きつとそうに違いない」

「うん、後悔している」

「<sup>注</sup>② 本統<sup>ほんとう</sup>に？」

「本統<sup>ほんとう</sup>に。然し今更後悔<sup>いまさら</sup>しても追つかないと諦<sup>あきら</sup>めているよ」

「私、それがいやなの。③それがいやなのよ」と細君は泣く。

二

「女と云うものは全く度し難いけどものだ」

或日良人は癩癩まぎれにこんな事を思った。

それから暫くして幾らか機嫌が直ったところで、彼は又こんな事を思った。

「然し同じけだものを飼うなら、とにかく（注3）ドメスティックなけだものの方が無難でいい。随分野獣を飼っている男もあるのだから、中には猛獣を飼っている人さえあるのだから。猛獣使いで暮すよりは、豚飼の方が安気でいいのだ。

そう諦めるより仕方がない」

こう思つて彼は自分を慰めた。彼は女性解放というような事も（注4）黒奴解放以上には解していない男であつた。

三

類は友を呼ぶの譬に洩れず、来る（注5）女中来る女中、皆気が利かなかつた。

する事総てが彼の思う壺を外れた。が、彼の機嫌のいい時はそれでもよかった。

然し一たん虫の居所が悪いとなると、自分でも苦しくなる程、彼には叱言の種が眼の前に押し寄せて来た。そういう時彼は加速度に苛々し癩癩を起し、自分で自分が浅間しくなるのであつた。

「総てに馬鹿さの感じが、漲つてゐるじゃないか。家中が馬鹿さの埃で一杯だ。眼も口も開いてられやしない」こんな風に見得も振りもなく怒鳴り散した。

「又、出家遁世ですか」

「本統に俺は旅行をするから、直ぐ支度をしてくれ」

「お株が始まりましたネ」

「直ぐ支度してくれ」

「何をそんなに怒つていらつしやるの？何もそれ程お怒りになる事ないじゃありませんか。何がいけないの？」

「二から十までいけないんだ。十から百までいけないんだ」

子供から寝起きの悪い良人は朝飯の食卓でよくこういう癩癩を起した。空腹だと一層それが烈しかった。

四

「つまり貴方があんまりお（注6）リコウ過ぎるのね」

或朝良人が珍しく機嫌のいい時、細君は笑いながらこんな事をいった。

「お前が馬鹿過ぎるんだよ」

「そう？そんなら私も今度は出来るだけリコウに生れて来ますからね、貴方ももう少し馬鹿に生れて来て頂戴よ。釣合いがとれないからね」

「人間に生れて来たんじゃないやあ、いつまで経つても同じ事だよ。女の馬鹿は昔から通り相場だ」

「人間でなく、何がいいの？」

「豚かね？」

「貴方さえおつき合ひ下さるなら……」細君は笑つた。

「豚は御免蒙ろう」

「一番夫婦仲のいい動物は何なの？」

「何かな。狐なんかいいという事だ。（注7）樺太の養孤場の話でそんな事を讀んだ事がある。しかも厳（注8）カクに一夫一婦だそうだ」

「感心ですわね。(例) 大変いい事ですわ」

その時良人は一夫多妻主義の動物は何か、と考えていた。然しそれは口に出さず、「狐も俺はいやだよ」と云った。

「それじゃあ何がいいの？他(ほか)に夫婦仲のいい動物あつて？」

「鴛鴦(うしどり)かな？えんおうの契(ちぎ)で」

「鴛鴦は綺麗(きれい)でいいわ」

「但(ただ)し綺麗なのは雄(オス)だけだが、それでもいいかね？」

「結構ですわ。それじゃあそういう事に今からお約束して置きますよ。『忘れちゃあいけませんよ』

「忘れるのはお前だ。間違えて家鴨(あひる)などに生れて来ると取り返しがつかないよ」

「まさか」

「まさかなものか。あり勝ちな事だ」

## 五

さて、これからがお伽噺(ときばなし)になる。何十年か経つてこの口やかましい良人は一生細君に叱言(しご)の云いつづけ、癩癩(ら)の起し続けで、目出度(めでた)く死んで了(しま)った。

細君は一方ほつともしたが、叱言(しご)ももう聞けない事かと思うとさすがに淋しい気持ちになった。細君は一層(もっとう)老碌(らうろく)した。そして死ぬさえ忘れたかのように気楽にそれからしばらく生きていた。

死んだ良人は約束通り鴛鴦(うしどり)に生れ変わって、細君の死ぬのを待っていた。彼は細君(のんき)が暢気(のんき)らしくいつまでも生きているのを相不変(あいかわらず)だと思った。彼は一緒に外出する機(おり)機、よく門の外でながく待たされた事などを憶(おも)い出していた。

## 六

何年かして細君の方も到頭(とうとう)死んだ。そしていよいよ生れ変わる時が来たが、何に生れ変わるのか、それを忘れて了(しま)った。鴛鴦(うしどり)だったかしら、狐(こ)だったかしら、それとも豚(た)だったかしらと考えた。豚でない事は確(たしか)に思えたが、鴛鴦(うしどり)か狐(こ)かが分かんなくなった。細君にはどうも鴛鴦(うしどり)だったように思えた。然し日頃(ひごと)良人が口癖(くぐせ)のように云っている事を憶(おも)い出した。「迷(まよ)う二つの場合(ばあい)があるとお前はきつといけない方(かた)を選ぶ。たまにはまぐれにもいい方(かた)を選びそうなものだが、宿命的(宿命)に間違いを選ぶのは実に不思議だよ」

これを選び出すと細君は尚(なお)迷(まよ)わずにはいられなかった。自身が鴛鴦(うしどり)だったように思う所にその宿命(宿命)の落穴(らくけつ)があるに違(ちが)いない、これは逆に狐(こ)を選ぶ方(かた)が却(かえ)って間違(まちが)いないだろう。そう考えて、とうとう(例) 狐(こ)に生れ変わって了(しま)った。

## 七

女狐(めぎつね)は森から森、山から山と良人を尋ね歩いた。然し却(なか)々(々々)出会う事は出来なかった。そしていよいよ尋ねあぐみ、或(ある)山奥(さんおく)に来た時に、その時は既に三日(さん)も餌(え)にありつかず、疲労(疲労)から殆(ほと)んど昏倒(こんとう)するばかりになっていたが、遙(はる)か下(か)の方に流れる音を聞くと、せめて水(みづ)なりと飲んで一時(ひととき)をしのぐと、力の抜けた足を踏みしめ踏みしめよろよろとその方(かた)へ降りて行(い)った。

良人の鴛鴦(うしどり)は清い溪流(溪流)に独り淋(さび)しく暮(く)していた。彼は今(いま)も潭(たん)をなす水面(水面)から一寸頭(ちよつと)を出している一つの石(いし)の面(めん)に片足(ひとあし)で立ち、うつらうつらしていると、不図(ふと)何か自身(みづか)に近づくもののあるのに気が附(つ)いた。彼は驚(おどろ)いて飛び立(た)とうとした。が、同時にそれが待ちに待った細君(こぎみ)である事に気附(つ)くと二度(ふた)びっくりし、思わず叫(こゑ)ん

で、その傍へ飛んで行った。

女狐も驚いた。然し今は余りの喜びと空腹とから、彼の女はそのまま其処に意気地なく這いつくばって了った。

さて、両方で顔を突き合して見て、初めてその大変な間違いに驚き呆れた。

良人は女狐の臭気にむせ返りながら、それでも直ぐ持前の癩癩を起し怒鳴り出した。

「何と云う馬鹿だ！」

# 八

女狐は泣く泣く自身の思い違いを詫びた。然しいくら詫びたところで、又よし良人がそれを赦したところで、もう追いつかなかった。

良人の鴛鴦は頭の毛を逆立て、羽搏きをしながら怒っている。女狐の方は詫も詫だが、空腹と疲労から意識も絶え絶えに言葉さえはつきりとは口に出なくなつた。眼の前で怒鳴り散らしているおしどりは良人には違いなかったが、少し意識がぼんやりして来ると、それ以上にこの上ない餌食に見えて仕方なかった。要領の悪いところから兎にも野鼠にも逃げられ通して来た細君には一層その感が深かった。然しこれは餌食ではないぞ、大事な大事な良人だぞと心に繰り返して我慢しているのだが、良人の叱言は余りにも執拗かった。

今はどうにも堪えられなくなつた。女狐は一ト声何か狐の声で叫んだと思うと不意におしどりに飛びかかり、忽ちの内にそれを食い尽して了った。——と云う話である。

これは一名「叱言の報い」と云う大変教訓になるお伽噺である。

「それは」口やかましい良人に対する教訓なのですか」

「そうです」

「気の利かない細君の教訓にもなりますね」

「そうですか」

「叱言を言われてもその細君が良人を愛している場合には……」  
「成程」

「これは貴方の御家庭がモデルなのでしょう」

「(A) 飛んでもない事です。(B) 私の家内は珍しい気の利いた女です。(C) 私とても至って温厚な良人です。(D) 私の家庭では叱言の声など聞く事は出来ません。(E) 文藝春秋と云う雑誌に私の名で家内安全の秘法を授く、と(注7) 広告が出ていた位です」

(志賀直哉『転生』)

(注1) 細君……女性配偶者(妻のこと。「良人」(夫)の対

(注2) 本統に……「本当に」に同じ。

(注3) ドメスティック……家庭的な「家で飼われている」の意である。

(注4) 黒奴解放……アメリカ合衆国での奴隷解放「黒奴」は現在では差別用語であるが、本作品発表時には普通に用いられていた。

(注5) 女中……家事手伝いをする女性。メイド。

(注6) 樺太……サハリン。本作成立時(大正時代)は日本領

(注7) 広告……この広告の話は実際にあった話で、この作品執筆の動機の一つとなった。

問1 傍線(A)「それがいやなのよ」と泣く細君は、良人(男)のどういう点が嫌なのか。次の中から最適のものを選び、記号にマークしなさい。

A 男の癩癩による暴力的な言動。

- B 癩癩を起こす男の意地の悪さ。
- C 癩癩を起こした男の意地悪い叱言。こいつ
- D 自分を妻にしたことを後悔していると言いつつ男の無神経さ。
- E 後悔しているといいつつ諦めているともいう中途半端な愛情。

問2 傍線㍷「お株が始まりましたネ」の末尾が片仮名書きであることから、この会話文はどのような表現効果がもたらされているか。次の中から最適のを選び、記号にマークしなさい。

- A 癩癩を起こしている良人とそれをうけ流す細君の、ものなれた日常的光景のほほえましき。
- B 癩癩を起こしている良人の我俣わがままにうんざりしている細君の、気の利かないところを強調する感じ。
- C 癩癩を起こしている良人の言葉に無理解な細君の、気の利かないところを強調する感じ。
- D 癩癩を起こしている良人の心を鎮めようとする細君の、ちよつとおどけて見せるところに生まれる緊張感。
- E 癩癩を起こしている良人の言動に慣れてしまった細君の、諦めた気分がただよう感じ。

問3 傍線㍷「リコウ」を漢字で書くところのようになるか。次の中から一つ選び、記号にマークしなさい。

- A 理工 B 理口 C 利口 D 利工 E 利好

問4 傍線㍷「カク」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、記号にマークしなさい。

- A 仕事上りの一杯の美味さはカク別だ。うま
- B あの家どうぶつの庭にある灯籠がカクレキリシタンの遺物なのだ。
- C これはね、君、カク議決定なのだ。
- D カク約はできないが、できるだけ意に添うようにしよう。
- E このカク度から見る君の顔が一番好きなんだ。

問5 傍線㍷「大変いい事ですわ」という細君のことばからうかがえることは何か。次の中から最適のを選び、記号にマークしなさい。

- A この細君が女性解放運動に関心を持っていること。
- B この夫婦が倫理的にたいへん神経質であるということ。
- C この良人は癩癩持ちではあるが、一方で常識人であるということ。
- D この良人はしばしば細君以外の女性に気がひかれているらしいこと。
- E この細君は気が利かないので時々他の男性とも親しくしてしまうこと。

問6 傍線㍷「狐に生れ変つて了った」のは細君がどう考えたからか。次の中から最適のものを一つ選び記号にマークしなさい。

- A 鴛鴦か狐か。鴛鴦だと思うけど、私がいつも正しいと思った方が間違ひの方なので、だから狐。

B 鴛鴦か狐か。鴛鴦だと思ったけど、良人はいつも私が思ったものとは違うものを選ぶから狐。

C 鴛鴦か狐か。鴛鴦だったはずだけど、そう思うところがきつと私の願望があるのだから、やっぱり狐。

D 鴛鴦か狐か。鴛鴦だと言わせておいて、やっぱり一夫多妻の狐に良人はなるだろうから狐。

E 鴛鴦か狐か。鴛鴦だったと思うけど、夫婦仲の感心な狐の方が良人も好きだろうからやっぱり狐。

問7 傍線④「堪えられなくなった」のは何に対してか。次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

A 良人の鴛鴦が美しくさえずっている声。

B 正しいと思って狐になったのに間違っていた自分のおろかさ。

C 三日間の間餌にありつかなかったことによるいらだち。

D 良人の鴛鴦を空腹のために食べてしまわないように我慢している理性。

E 目を飛び回っている鴛鴦を食べてしまいたいという欲望。

問8 傍線①「口やかましい良人に対する教訓」とは、どのような教訓のことと考えられるか。次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

A 妻に対して口やかましいと死後動物に転生してしまうぞ。

B 妻に対して口やかましいと鳥に生まれ変わって妻に食われてしまうぞ。

C 妻に対して口やかましいと最後には妻からの逆襲を喰うぞ。

D 妻に対して口やかましくしたりせず、身をつつしめ。

E 妻に対して口やかましくするならやさしさを持て。

問9 会話文①の発言を良人と、女性に対する視線に同質のものが感じられる。とくにそれを思わせる会話文②を作る(A)(B)の文の中にある語によってである。その語を含む文を一つ選び、記号にマークしなさい。

問10 文中、「鴛鴦」と「おしどり」と二種類の語が転生した良人に対して用いられている。その用いられ方の違いについての説明として、次の中から最適なものを選び、記号にマークしなさい。

A 「鴛鴦」は女狐に再会する以前の良人に、「おしどり」は再会後にとつかいわけられている。

B 「鴛鴦」は怒鳴り散らしている良人に、「おしどり」は女狐の餌としての鳥に用いられている。

C 「鴛鴦」は転生後も夫婦としてあろうとする良人に、「おしどり」は単なる鳥類を意味するのに用いられている。

D 「鴛鴦」は夫婦間の愛情を示す場面で、「おしどり」は「狐」に対する鳥類としての場面で用いられている。

E 「鴛鴦」は夫婦の間の絆を描いている時に、「おしどり」は狐の視点から餌食として見た場面に用いられている。

## 【解答】

## 一

問1＝C 問2＝D 問3＝E 問4＝B 問5＝C 問6＝E  
 問7＝B 問8＝D 問9＝A 問10＝C 問11＝B 問12＝D

## 二

問1＝D 問2＝A 問3＝C 問4＝A 問5＝D 問6＝A  
 問7＝C 問8＝C 問9＝B 問10＝B

## 【解説】

## 一

問1 傍線部が問われる問題では、必ず傍線を含む文を読むこと。「価値観が多様化した社会」では価値判断の中身に立ち入ることが難しいので、かつて以上に高いコミュニケーション能力が求められる、と本文にある。二段落の最後に「互いの立場を調整しあうためのコミュニケーション能力だけが、ただ一つの価値基準として残される」とある。正答はC。Aは「中身に入り込める」が不適。Bは相互に異なった価値基準とあるので、「共通」が不適。Dは具体的な内容を見通すことが困難とあるので、「見渡せる」が不適。Eは従来は同質性が高かったが、しかし、と逆接で今日では困難とあるので不適。

問2 疎通と記す。訓読みでは、うと(い)、まば(ら)、おろそ(か)と読む。

疎通とは、ふさがっているものとどこかおりなく通じること。また、筋道がよく通ることを意味する。

問3

## 一

直後にある、高いコミュニケーション能力を備えている人が社会的に有利なポジションに立ちやすくなるのはなぜか。それは一 直前に、コミュニケーション能力さえあればどんな他者とも関係をとり結べるから、と理由が書かれている。「そのため」と前に理由・根拠が示され、後に結果が表されるときに用いる接続詞だ。

問4

大きな錯覚とは何か。副詞の「じつは」に注目しよう。「本当のところは」という意味だ。筆者が強い主張を行うことを示す合図になっている。「個人に内在する能力ではなく、じつは相手との関係の産物なのです」とある。「～でなく…」という構文であることも注目したい。錯覚＝個人に内在する能力、事実＝相手との関係の産物、ということになる。

問5

「このような宿命論的な考え方」とは何か。宿命論とは、世の中の出来事はすべて、あらかじめそうなるように定められていて、人間の努力ではそれを変更できない、とする考え方だ。指示内容は同段落に「人生を決めるのは勤勉よりも運やコネだと考える」とある。運やコネは個人の努力ではどうにもならない。

問6

卑下と記す。いやしめて見下すことを意味する。

問7

潤滑油とは、機械の接触部の摩擦を少なくするために用いる油のことだったが、そこから転じて、物事が円滑に運ばれる仲立ちとなるものの喩えとして使われる。

問8

傍線部だけでなく、傍線部を含む文を見ると、「しかし、その能力を重視する社会の風潮は、形を変えて子どもたちの人間関係にも影響を与えている」とある。「その能力」とはコミュニケーション能力だ。よってEは不適。影響を与えられている対象は「子どもたちの人間関係」だ。よって正答はD。

問9

「子どもたちに」二 になれと要求しているわけではなく、ということとは、

母親が子どもたちに要求していないことを探せば良い。アンケートによると「社会のために尽くす人」が圧倒的に少ない」と直前にある。「社会のために尽くす人」とはどういう人か。Aの利他的とは、自分のことよりも他人の幸福を願うことを意味するで、正解。仮に利他的の意味が分らずとも、「他」人に「利」益となるように図る、と熟語をばらして考えてみると正答に辿りつける。

問10 「こうした親」の示す内容は何か考えてみよう。今日の母親たちは孤立することなく無事に生き抜いていくための人的資源Ⅱインフラ友だちⅡママ友づくりに励んでいると書かれている。「孤立することなく無事に」が「孤立を回避する」と書き換えられている。

問11 指示語の指示内容は直前の十一段落にある。「集団のなかで目立つことは非常にリスクなことであり、できるだけ回避しなければならないと感じている」とある。リスクであり、回避しなければならないということは、目立たないように努力すること。

問12 内容と合致しないということに注意すること。Aは二段落、Bは九段落、Cは五段落、Eは十三段落にそれぞれ記述がある。Dについては十段落に「高校生よりも中学生、そして中学生よりも小学生のほうが高い」と記されている。選択肢とは逆だ。

## 第二問

問1 「それがいやなのよ」の「それ」が何を指しているか。直前の「本統に。然し今更後悔しても追つかないと諦めているよ」の良人の言葉であることは直ぐに分る。その前に細君が繰り返した後悔しているか尋ねている。良人が平気で後悔していると言う態度が細君にはいやなのだ。Aの癩癩による暴力的な言動、

Bの癩癩による意地の悪さ、Cの意地悪い叱言には、細君を困らせたとあるが、「いや」なことではない。Eの「後悔している」といつつ諦めている「愛情の問題ではなく、良人の無神経な言葉が細君はいやなのだ」。

問2 お株とは、その人の得意とするわざや特有の癖を意味する。「又、出家遁世ですか」と書かれているように良人の口癖であり、「よくこういう癩癩を起こした」とあることから、このやり取りは日常的だということが分かる。出家遁世とは俗世間を離れ仏門に入ることの意味する。良人が僧侶になるわけではないから、軽くないしているのだ。BやCの気の利かないところの強調ではない。Dの「おどけて見せる」は良いが、緊張感が不適。Eの諦めではない。細君が諦めているとしたら、決して「何をそんなに怒っていらっしやるの?…」と言葉は続かない。正答はAだ。

問3 利口と記す。理口、利工、利好は存在しない。

問4 厳格と記す。A 格別、B 隠れ、C 闊議、D 確約、E 角度。

問5 「感心ですわね。大変いい事ですわ」とあるが、何がいい事なのか。樺太の養狐場の狐は夫婦仲がよく、厳格に一夫一婦制だ、とある。一夫一婦制を「いい事」と細君が言うのは、良人がそうではないことを意味している。事実、良人は一夫多妻主義の動物は何かと考えている。つまり細君以外の女性にひかれるらしいことが分かる。正答はD。Aの女性解放運動については記述がない。Bの「倫理的にたいへん神経質」は良人が決してそうではないことが分かるので不適。Cの「常識人」ならば、一夫多妻制について考えようとはしないはずだ。Eの細君が他の男性と親しくなるということは記述はないので不適。

問6 細君は生まれ変わるとき、何に生まれ変わるかを忘れてしまっていた。細君は豚ではないことは確かだが、鴛鴦か狐かが分らなくなった。鴛鴦のように思えたが、良人は口癖のように、二つの場合で迷ったら細君は宿命的に間違いを選

ぶと言っていたことから、鴛鴦ではなく狐を選ぶ。よって正答はA。狐に

問7 意識がぼんやりして来ると餌食にしか良人が見えなくなるのはなぜか。七章に狐に生まれ変わった細君は三日も餌にありつけなかったと七章に書かれている。大事な良人だと心に繰り返し返すが、空腹の細君には良人の言葉は執拗なもので、いらだっているのだ。堪えられないとは、我慢できないという意味だ。Aは明らかに不適。Bはおろかさ到我慢できなかったのではない。Dは理性を我慢できないでは意味が通じない。Eと迷うかも知れないが、直前に記された「良人の叱言は余りにも執拗かった」とあることから、単に食べてしまいたい欲望では不適。正答はCだ。

問8 傍線の前に「叱言の報い」と云う大変教訓になるお伽噺」とある。報いとは、ある行為の結果として身にはね返ってくる事柄のことだ。癪癪を起こし怒鳴り散っていた（＝叱言）ため、食べられてしまった（＝報い→逆襲）のだ。正答はC。

問9 良人は細君の気の利かなさに腹を立て、癪癪を起こしてした。筆者は「私の家内は珍しく気が利いた恩田です」と、女性に対して気が利いているか、利いていないかで判断をしている。自分からどうするのではなく、女性が気を利かせることを前提としていることから、良人と筆者の視線が等しいことが分かる。正答はB。

問10 八章では「鴛鴦」と「おしどり」と表記が混在している。「おしどり」という表記は、「眼の前で怒鳴り散しているおしどりは良人には違いなかったが、少し意識がぼんやりして来ると、それ以上にこの上ない餌食に見えて仕方なかった」、「…不意におしどりに飛びかかり、忽ちの内にそれを食い尽くして了った」と二箇所ある。餌の対象となったときに「おしどり」になる。怒鳴り散しているのは良人としての「鴛鴦」だ。Aの再会以前／以後というくくりではない。Cの「単なる鳥類」、

Dの「狐」に対する鳥類も不適。狐に生まれ変わった細君の餌が「おしどり」だ。ではEはどうだろうか。四章で「鴛鴦（えんおう）の契り」と夫婦仲の良さの象徴として鴛鴦に生まれ変わるとあるが、生まれ変わった後に良人は癪癪を起こし怒鳴り散している。夫婦仲の絆が不適。

体育進学センター